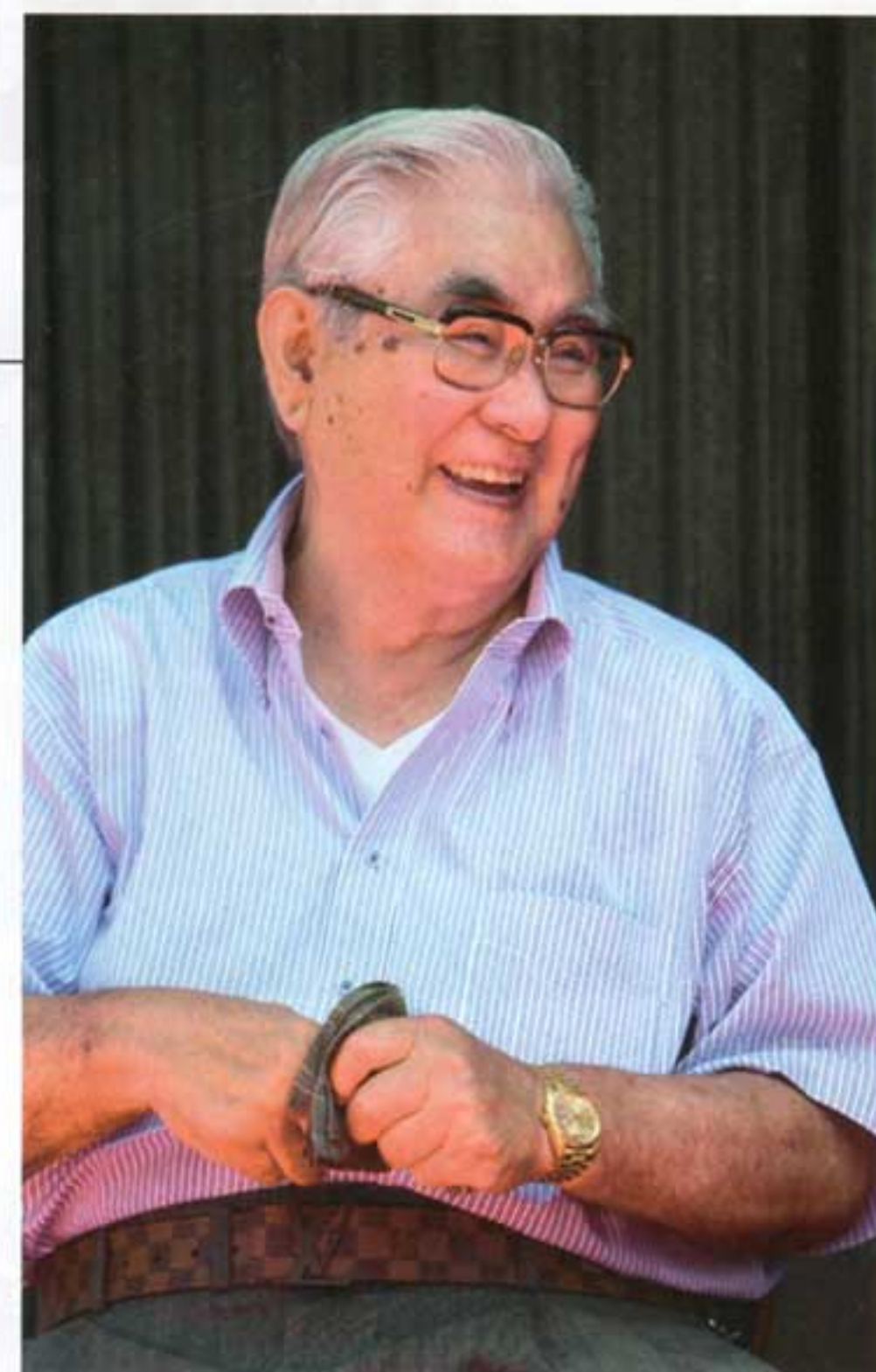




水冷直列6気筒SOHCのM型エンジンはもちろん、2000GT用の同6気筒DOHCの3M型エンジン開発を担当した高木さん。エンジンルームの狭い2000GT搭載にあたっては、エアリーナー位置に苦勞し、フェンダーヘサービスリッドを設けて、なんとか収めた。今回の3000GTでは、2JZ型エンジンを搭載しているが、純正同様に狭いスペースに直列6気筒DOHCエンジンを搭載した手法に感心しきりだった。



トヨタのワークスドライバーとして活躍し、チームトヨタのキャプテンを務め、トヨタのモータースポーツ活動の中核を担った細谷さん。完成したロッキー3000GTに乗り込みテストドライブを行った。しっかりとした乗り味と完成度の高さに太鼓判を押していた。



①ロッキーオートが製作したロッキー3000GTの完成披露に合わせて、トヨタ2000GT開発にかかわったメンバー3人が集まった。左から高木英匡さん、細谷さん、松田栄三さん。②トヨタ2000GTの実車を前に話さざるを得なかった。③トークショーを終え、ロッキーオート代表の渡辺喜也さんも交えて記念撮影。

TEXT : HIDEAKI KATAOKA/片岡英明  
PHOTO : AKIO HIRANO/平野 陽  
COOPERATION : ROCKY AUTO/ロッキーオート

## 【ロッキー3000GT発表記念】 トヨタ2000GTトークショー

前号で、その全ぼうを紹介したロッキーオート製作のロッキー3000GTの企画開発には、オリジナルの2000GT開発にかかわり、チームトヨタのキャプテンを務めた細谷四方洋さんがかかわっている。そんな縁からロッキー3000GTの発表会では、トヨタ2000GTの開発にかかわったオリジナルメンバーのトークショーが開催された。



2000GTが3つの世界記録と13の交際新記録を打ち立てたスピードトライアルの際に、クラッチ系のパーツに不具合が発生し、急ぎよパーツを仕立て、谷田部まで届けたエピソードは有名だが、まさに、そのパーツを運んだのが松田さんだった。



「クラウン用のエンジンをベースに、高性能化しましたが、エンジンルームが狭く、長い直列6気筒エンジンを収めるのに苦勞しました。担当者は、自分がかかわっている部分を良い形にしたいので、スペースの取り合いになりました。気づいたら、エアリーナーとバッテリーを置く場所がなくなって、迷った末に、外にリッドを設け、エアリーナーとバッテリーを取めました」と、笑顔で舞台裏を明かした。

トヨタのテストコースに持ち込まれたトヨタ2000GTは、すぐには走らせなかった。1台しかない大切な試作車なので、最初に写真を撮ったのである。だが、現在開発中の写真はほとんど残っていない。茨城県の谷田部にある高速試験場で行った78時間スピードトライアルの写真も、公的なものはまったくない。そんな中、コッソリと写

真を撮っていたのが松田栄三さんだ。「このスピードトライアルのとき、私は何かあったときのために本社で待機を命じられていたのです。すると夜中の2時頃に電話がかかってきました。クラッチ系のパーツに不具合が出て、耐久性に不安がある、と言うのです。すぐに対策パーツを作り、試験場まで持って来い、と言われました。このトラブルがあったため、幸運にもスピードトライアルの現場に行けたのです。このとき、カメラを持って行き、黙って写真を撮ってしまいました。今になると貴重な写真ですよ」

と、松田栄三さんは秘話を明かした。「あの78時間スピードトライアルのときは、本番前の3回のテストでは、ピストンが焼き付いたり、クラッチにトラブルが出たりして、一度も予定の距離

細谷四方洋さん、山崎進一さん、松田栄三さん、高木英匡さん、野崎諭さんの6名で、このほかにアシスタントの女性もいたという。

プロトタイプ1号車は65年の夏に完成した。お盆休みの8月14日、細谷四方洋さんは河野二郎さんに付き添ってヤマハの本社工場を訪れている。クルマを引き取るためだ。そのときの感動を、トークショーで語った。また、市販に向けての走行テストを行っただけでなく、流麗なボディと上質なインテリアを手がけたデザイナー、野崎諭さんのアシスタントを買って出たことも告白している。

「トヨタ2000GTは、アメリカでデザインを学んできた野崎諭さんの作品なんです。雑誌やネットでは外国人がデザインした、なんて言っているけど、とんでもない。あの美しいラインは、野崎さんならではのものです。誰もマネできません。私は「野崎ライン」と呼んで賞賛しています。

この天才ともいえる野崎さんのアシスタントを務め、原寸大の図面の線を引く作業を手伝いました。また、スピンドルなど、クルマの方向感覚が分かりやすいように、フェンダーの峰の形を変えてもらいました」

パワーユニットは量産型のM型水冷直列6気筒SOHCをベースに、そのヘッドまわりをヤマハがDOHC化した3M型である。燃料供給は3基のソレックス・キャブレターだ。クラウンに搭載しているSOHCのM型水冷直列6気筒エンジンを担当していた高木英匡さんが、エンジンの開発にかかわった。この高木英匡さんは、細谷四方洋さんが初めて名古屋のトヨタ本社に行くとき、出迎えにきた人でもある。

## Rocky 3000GT [ロッキー3000GT]

オリジナルのトヨタ2000GTを精密に採寸し、CADデータを作成。そこから精巧なマスターを製作し、FRPのボディパネルを作り出すという手法で、オリジナルと違わずボディと、パイプフレームによるシャシーを組み合わせ、2JZ型エンジンを搭載。パワーステアリング、パワーウィンドー、4AT(オプションでMTも設定)を備えるレプリカ「ロッキー3000GT」。細谷さんも太鼓判を押す完成度の高さが特徴。問い合わせは、ロッキーオート TEL 0564-66-5488 まで。



# オートレジェンド2015

## COOL'S



ステージでは、トークイベントやライブを開催。アイドル系から伝説のロックバンドの演奏で、観客は大興奮。メロリノのCONNYのライブに続き、35周年となる横浜銀蠅が大トリで、会場のボルテージはMAX!

## 旧車とスーパーカー、ライブが一体化したイベントがパワーアップ!

●2015年9月20日/愛知県名古屋市・ポートメッセなごや3号館  
TEXT & PHOTO: NOSTALGIC HERO/編集部

毎年恒例となった、ポートメッセなごやで開催される、旧車とスーパーカー、そして伝説のアーティストによるライブで盛り上がる「オートレジェンド2015」が、9月20日に開催された。昨年までの第1展示館から、今年から第3展示館に移動し、パワーアップ。出展社のほうも合計71ブースにのぼり、見応えのあるクルマが並んだ。

来場者が期待しているライブでは、平均年齢26歳の歌唱力と色気を武器にしたアイドルユニット「Predia (プレディア)」をはじめ、80年代に大ブレイクした「ザ・ヴィーナス」のボーカルを務めた「CONNY」、そして、今年が35周年となる「横浜銀蠅」がライブのトリを務め、大盛り上がりとなった。

のレジェンド、トヨタ2000GTの前期、後期モデルが集結。その中には、ご存知ロッキオオートが製作する「R3000GT」も初お披露目。完成度の高さに、大きな反響を呼んでいた。

また、特別展示としては、トヨタ博物館の協力で、「トヨタ7」を展示。当時の状態に完全レストアされたその姿に、クギ付けになる観客も多かった。

そのほか、フェラーリやランボルギーニなどのスーパーカーをはじめ、国産旧車、そしてNSXオーナースクラブ「クライス」、「DSCC」によるフェアレディZの展示など、盛りだくさん。屋外スペースでは、排気音を響かせる「ライブエキゾーストノート」やシャシィンダイによる「パワーチェック」を開催。たっぷり楽しめる1日だった。



イベントの最後には、主催者であるロッキオオートの渡辺也社長が挨拶。「オートレジェンド2015」の開催も予告した。



52のV8ツインターボエンジンを搭載した70年式トヨタ7。800psと発表されたが、ワークスドライバーの細谷四方洋さんによると、「1000ps」だったそうだ。



一角を占めたスーパーカー軍団。旧型から最新モデルまで展示されていたが、スーパーカー世代にとっては、カウンタックの雄姿が懐かしい。



国産旧車の最高峰といえるトヨタ2000GTが集結。前期、後期が並ぶ中、ロッキオオートが製作した「R3000GT」(上)も初お披露目!



屋外イベントで注目を集めていたのは、シャシィンダイによるパワーチェック。スーパーカーからドラッグマシンまで、パワー自慢のクルマが計測。NSXも挑戦!

### プリンスクラフト



タイヤ&ホイール以外はオリジナルの65年式プリンススカイライン2000GT。貴重なS54B-II型だ。

### YKオート



11 ローレルSGLは、L28型エンジン公認で、ヘッドチューンを施し、キャブはソレックス44PHH。前後とも車高調を装着。12 フルレストアしたGT-XのR仕様。全面白ガラスを採用し、エンジンはL28型公認。13 4ドアのGT-XがベースのR仕様。赤いヘッドカバーのエンジンはL28型公認で、キャブはウエーバーを装着。14 ジャパンGT-EXベースのR仕様。エンジンはL28型改3仕様を搭載。

### ダディーモーターワークス



19 74年式クラウン・カスタムをフルカスタム。ボディカラーはダッジ系のトキシックオレンジを全塗装。エンジンは42の1UZ-FE型を搭載し、ミッションはマークIIツアラア系の5速MTの組み合わせた。20 71年式180OSSSを、ワイルドな外観にカスタム。ただし、モダンな装備による快適仕様だ。

### ノスタルジックヒーロー



ノスヒロブースには、ダディーモーターワークスが製作したエアサス仕様のS30Zを展示し大好評!

### コーリンプロジェクト



新発売のハコスカ用スチール製フロントフェンダーが大評判。テールレンズも注目を集めていた。

### タキーズ



72年式GT-R仕様だが、よく見るとショートノーズの1800がベース車だと分かる。エンジンはG18型で、ソレックスキャブなどでチューンナップ。72年式4ドアGT-Xをベースに、L20型改2.4Lエンジンを搭載。王道ともいえる71年式のハコスカGT-R仕様。72年式のGT-R仕様は、珍しいサファリアブラウンの1台。搭載するエンジンは、L28型改3仕様。70年式2432は、エンジンをはじめ、前後オーバーフェンダーなどモディファイ!

### プロフィット



85年式セドリック・プロアムVIP。ポルテックスインベリアル15インチスポークは、センターロック方式。86年式クラウン・ロイヤルサルーンGは、珍しいブラックテール。BBSの16インチホイールを装着。83年式グロリア・プロアムは、ワンオーナー車。エンジンルームはフルカスタム済み!

### ロッキーオート



1 内外装ともレストア済みの71年式ハコスカGT-R。足回りやブレーキなど、走りのチューンナップも万全。2 トランザム用の5.7L V8エンジンを搭載した左ハンドル240Z。ミッションは6速MTだ。3 RB30型エンジンのスポーツインジェクション仕様を搭載したゲンメリ。足回りはマルチリンクを移植しているため、乗り味は別格。4 外装をフルカーボン仕様としたハコスカは、S&S製のRB26型エンジンを搭載する。5 RB25型改2.8Lスポーツインジェクション仕様を搭載したハコスカ。

### ピットハウス



70年式ハコスカGT-Rは、純正ホイールを装着したフルノーマル車だ。21 左のオーバーフェンダー付きは73年式Z-L。エンジンはフルバランス加工。ブレーキはMK63を装着。右は75年式。エンジンはL28型改3仕様。22 75年式GT-XベースのR仕様。エンジンはL28型改3.1仕様で、ソレックス50PHHを装着。23 シルバーのR仕様は72年式GT-X。L28型改3.1仕様を搭載する。

### M,speed



24 前回はフルレストア中でドンガラだったS30Zが、ほぼ組み上がった状態でお披露目。25 多数のオリジナルパーツを展示。中でも、ハコスカ用ドア内張りや新製品のレギュレーターは注目の的だった。

### ピットハウス



70年式ハコスカGT-Rは、純正ホイールを装着したフルノーマル車だ。21 左のオーバーフェンダー付きは73年式Z-L。エンジンはフルバランス加工。ブレーキはMK63を装着。右は75年式。エンジンはL28型改3仕様。22 75年式GT-XベースのR仕様。エンジンはL28型改3.1仕様で、ソレックス50PHHを装着。23 シルバーのR仕様は72年式GT-X。L28型改3.1仕様を搭載する。

# Nostalgic Hero

Impressive Classic Car Magazine  
ノスタルジックヒーロー

## 忘れ得ぬGT TOP ARTICLE ● 特集 Unforgettable GTs

サバンナAP GT / スカイライン2000 GT-ES / ベレット1800 GT / フロンテ71GT-W / カローラセダン1600 GT

Vol. 172

第2特集  
**GO! マツダ** R100スパ・クラシックレース参戦レポート / 三次試験場50周年マツダファンミーティング /  
コスモスポーツ・レストアッププロジェクト / 寺田陽次郎レーシングドライバー50周年を祝う会 / コスモAP誕生40周年

注目記事  
第8回ノスタルジック2デイズ2016開催決定!  
トヨタ2000 GTトークショー  
ビンテージギャラリー DOME RC-83



好評連載  
輸入車版懐古的勇士 モーリス・ミニクーパーS  
アメリカ発! ニッポン旧車の楽しみ方 オランダspl.  
グッドカー・グッドシーズン サバンナGT  
あの時代、あのクルマ 1960年編

12  
2015 DECEMBER

EVENT  
オートレジェンド2015  
第18回オールオッズナショナルズ  
みんなであわせになるまつり in 夷隅  
第1回国東海道レトロカーミーティング ほか

●次号は2015年12月26日発売予定です